

『立山室堂～新穂高縦走合宿 2008』報告書

日程：8月3日(夜)～10日 (予備日含む)

形態：パーティ テント泊縦走

難易度：体力 ...4.5

技術 ...2.5

風景

目的：薬師岳登頂&雲ノ平散策

@悪天候時は立山周辺散策に変更?!

メンバー 計8名(各テン 3or5人)

CL-藤田(食料)

CL-笠井(食料)

SL&救急-鈴木(テント本体)

SL-山本(テント本体)

記録-川原(テントサブ)

通信-羽根(食料補助&調理セット) 救急-杉原(食料&調理補助)

通信-橋崎(テントサブ)

食料計画

	朝	昼	夜
8月4日	個装	個装	五目ちらし+ハンバーグ+ご飯
8月5日	パスタ+ソーセージきのこ炒め+スープ	ラーメン+個装	おでん+野菜炒め+ご飯
8月6日	たくあんベーコン炒め+スープ+ご飯	個装	鳥ネギ丼+お吸い物
8月7日	味噌煮込みうどん	ホットケーキ+個装	炊き込みごはん+缶詰+海藻サラダ
8月8日	サバ煮スープ+レトルト+ご飯	個装	レトルト丼+マカロニ入りシチュー
8月9日	うどん+海藻サラダ+スープ	個装	ポテト&コンビーフ+マーボー春雨+ご飯
8月10日	お茶漬け+缶詰	山小屋	

4日夜：五目ちらしの素、きゅうり、シーチキン、マヨネーズ、焼き海苔、ハンバーグ

5日朝：乾パスタ、ソーセージ、大根、わかめスープ、各種きのこ

夜：レトルトおでん、玉ねぎ、じゃがいも、長ネギ、ししとう、その他野菜

6日朝：沢庵、ベーコン、じゃがいも&玉ねぎ&コンソメスープ

夜：焼き鳥レトルト、長ネギ、お吸い物

7日夜：炊き込みご飯の素、各種缶詰(個装)、海藻サラダ

8日朝：サバの味噌煮缶、大根など各種野菜、和風スープ

夜：各種レトルト(個装)、マカロニ、じゃがいも、人参、玉ねぎ、シチューの素

9日朝：うどん、スープ

夜：マッシュポテト、コンビーフ、マーボー春雨、焼き麩

・献立の順序は変更可

団体装備； ステラ6テン×1、 4テン×1、 鍋セット×2、 バーナーヘッド×4
調理セット×2、 救急セット、 ペグ2セット、 トランシーバー×2

個人装備； メインザック(60以上)、 シュラフ、 レインウェア、 断熱マット、
ヘッドランプ、 着替え(上着など含)、 防寒着、 飲み物容器、 食器類
予備電池、 タオル、 帽子(バンドナ可)、 非常食、 ライター(マッチ)
ゴミ袋、 トイレットペーパー、 ティッシュ、 折り畳み傘、 日焼け
止め、 お風呂セット、 身分証&保険証(コピー可)、 新聞紙、 洗面用具、
常備薬、 ザックカバー、 行動食、 サブザック、 計画書、 ラジオ、
お米9合以上

レトルト3日分、 缶詰数個、 嗜好品(お酒、お菓子)、
青春18切符、 行動食(昼食用含)、 学割、

行動

8月3日(日)夜

集合；JR京都駅北 新阪急ホテル前 22：30

移動；(富山地方鉄道高速バス) 23：00 京都駅前発

8月4日(月) 「室堂～一ノ越～雷鳥沢キャンプ場」

移動；富山駅5：20着

電鉄富山駅5：44発～**室堂**8：00着(富山地方鉄道)

登山

08：00 室堂バスターミナルにて待機、雨のため

09：45 出発、15：00には着きたい(幕営地に)

10：40 一ノ越山小屋着、小休止

10：54 悪天候のため雷鳥沢に向かうことに、出発

11：52 小休止

11：57 出発

12：24 雷鳥沢着、幕営

その他；

14：00 雷鳥沢温泉へ

16：00 夕食準備

16：48 夕食(おでん+米)

17：30 片付け

19：00 就寝

備考：天候悪し→午後天候良し

8月5日(火) 「雷鳥沢～浄土山～五色ヶ原キャンプ場」

起床；02：00 02：30 朝食(ラーメン)、02：50 テント片付け

登山

03：40 **雷鳥沢キャンプ場**出発

04：30 小休止 04：40 出発

05：10 室堂山展望台分岐着

05：36 浄土山山頂手前の慰霊碑着

05：41 小休止 05：51 出発

06：05 電波塔、富山大研究所着&小休止 06：20 出発

07：15 雪渓横断(50m×3)

07：40 小休止 (07：45 笠井のチョコ分散) 07：50 出発

08：13 獅子岳(2741m)着、小休止 08：25 出発

09：32 **ザラ峠(2348m)**小休止 09：50 出発 10：30 には着きたい(幕営地に)

10：13 五色ヶ原ヒュッテ着、小休止、羽根さん待ち

10：15 出発

10：27 **五色ヶ原キャンプ場(2400m)**着、幕営

その他；

11：00 テントやら昼食やら準備

11：50 昼食(スパゲティ+ウィンナー)

12：10 片付け

16：10 夕食準備

17：40 夕食(野菜炒め+きゅうり+スープ+米)

18：15 片付け

20：00 就寝

備考：晴れ後々雨

行動時間；6時間50分

8月6日(水) 「五色ヶ原キャンプ場～スゴ乗越キャンプ場」

起床；03：00 03：10 朝食準備

登山

05：10 五色ヶ原キャンプ場(2400m)発
05：55 小休止 06：05 出発
06：57 越中沢乗越(2356m)小休止 07：07 出発
08：17 越中沢岳(2591.4m)小休止 08：30 出発
09：19 スゴノ頭(2431m)小休止 09：37 出発
10：17 スゴ乗越小休止 10：35 出発
11：14 スゴ乗越キャンプ場(2300m)着、幕営

その他；

11：55 テント準備
12：05 昼食(個人装備)
15：49 夕食準備
16：40 夕食(鳥ねぎ丼+お吸い物)
19：00 就寝

行動時間；6時間強

8月7日(木) 「スゴ乗越キャンプ場～薬師峠キャンプ場」

起床；02：00 朝食準備、02：40 朝食(味噌煮込みうどん+ラーメン)

03：40 テント片付け終了

登山

04：00 山小屋出発
05：02 間山(2585.2m)着、小休止、**日の出** 05：15 出発
06：06 偽薬師(2832m)着、小休止 06：25 出発
06：55 **北薬師(2900m)**着、小休止 07：15 出発
08：10 **薬師岳(2926.0m)**着、休憩 08：50 出発
09：11 愛知大ワングル部遭難のケルン着
09：40 薬師岳山荘(2701m)着、小休止 09：50 出発
11：03 **薬師峠キャンプ場(2294m)**着、幕営

その他；

13：00頃 昼食(ホットケーキ)
16：00 夕食準備

17:13 夕食(シチュー+米)

17:58 夕食終了

19:00 就寝

備考：晴れ、綺麗な縦走路を歩く、今合宿最高峰(2926m)薬師岳登頂

11:30 に森田さんに歩荷のアルバイトに誘われる

行動時間；7時間強

8月8日(金) 「薬師峠キャンプ場～雲ノ平キャンプ場 or 高天ヶ原山荘」

起床；02:00 03:00 朝食(レトルト[個人装備]+スープ+米)

登山

04:15 薬師峠キャンプ場(2294m)出発

04:40 太郎平小屋着、日の出まで待機 05:25 発

05:40~50 笠井さんこける、木で膝を打つ 小休止

06:52 小休止、山本さんデジカメ紛失に気付く

07:18 薬師沢小屋(1900m)着、沢の合流点&綺麗な小屋 休憩+会議

07:45 高天原温泉 - 雲ノ平 2班に別れる 以下、雲ノ平ルート

07:55 出発 ... 「500m以上の急登」

08:47 小休止(森の中) 08:57 出発

09:35 小休止(森の中) 09:42 出発

09:58 アラスカ庭園(2463.9m)着、小休止 10:10 出発

10:44 雲の平山荘着、休憩(ジュースで乾杯) 11:18 出発

11:40 雲ノ平キャンプ場着(2500m)、幕営

その他；

13:00 昼食(個人装備)、水浴びなど

15:30 夕食準備

16:25 夕食(レトルト[個人装備]+マッシュポテト+お吸い物+米)

16:40 片付け

17:20 トランプ

18:00 夕日を見るため、スイス庭園まで散策。水晶岳と夕日の絶景

19:00 就寝

備考：晴れ、2時間10分の登りがきつかった

行動時間；7時間半

8月9日(土) 「雲ノ平キャンプ場～双六キャンプ場」 別班 - 「高天ヶ原～双六」

起床；02：40 03：55 朝食(炊き込みご飯+棒ラーメン)

04：20 テント片付け終了

登山

05：02 雲ノ平キャンプ場出発

05：09 雷岩

05：13 スイス庭園へ寄り道

06：03 小休止 06：13 出発 槍ヶ岳圧巻

06：50 黒部源流着 07：05 出発

07：07 黒部川水源地標

07：35 三俣山荘(2550m)着、休憩 天候快晴 08：00 出発

08：45 三俣蓮華岳(2841m)着、360 景色 09：10 出発

10：04 双六岳(2860.3m)着、休憩 10：38 出発

11：24 双六キャンプ場(2600m)着、幕営→12時過ぎから雨

その他；

12：41 別働隊と合流(雷雨)

16：00 夕食準備

16：50 夕食(ちらし寿司+ハンバーグ+わかめスープ+米)

17：35 夕食終了→夕立(雷伴う)

19：00 就寝

備考：晴れ後夕立(雷雨)、双六岳～キャンプ場までの丘が良かった(槍ヶ岳が綺麗)

行動時間；6時間超

8月10日(日) 下山日(双六キャンプ場～新穂高)

起床；02：40 03：40 朝食(麻婆春雨+米)

04：15 片付け終了

登山

04：46 双六キャンプ場出発

05：26 花見平着、残雪

05：37 弓折乗越(2580m)着、小休止 05：47 出発

06：07 弓折中段着

06：22 鏡平山荘着、休憩(名物「カキ氷」を食す)

06：39 鈴木さんバスの時間確認 06：45 出発

07:08 シシウドガ原着
07:26 イタドリガ原着
07:44 チボ岩着
07:49 秩父小沢と合流、小休止
07:57 鈴木さんトイレに先に行く 08:00 出発
08:04 秩父沢着
08:24 沢と合流 08:34 橋、林道歩き開始
08:49 わさび平小屋着、休憩(各種野菜や果物、ジュースを頂く)
09:10 出発
09:30 橋通過
09:43 お助け風(風穴)
10:00 登山口案内着
10:08 新穂高温泉アルペン浴場着、入浴など

その他

11:50 発の高山行きバスに乗り込む
13:30 位 JR 高山駅着
13:50 位 昼食(飛騨ラーメン)
14:45 美濃太田行きの電車に乗る、3回乗り換え
20:15 京都駅にて解散、お疲れ様でした
備考: 晴れ、登り→下り→下り→下り→林道(アスファルト)

JR; 高山 14:45 ~ 美濃太田[17:08、17:28]~岐阜[18:02、18:21] ~
米原[19:08、19:19] ~ 京都 20:12
高速バス; 高山 15:20 ~ 名神京都深草 19:20 ~ 梅田 20:14

行動時間 5 時間超

その他情報

エスケープルート 四日目 太郎平小屋 ~ 折立経由、富山市内へ

費用

交通費; 京都 - 富山 夜行高速バス 3880 円
富山 - 室堂 電車 & ケーブルカー & バス片道 3530 円
新穂高 - 高山 バス 2100 円

高山 - 京都 青春18切符 2300円

折立 - 有峰口 バス 2400円、タクシー中型一台 12000円

食費；1500円程度

宿泊費；500×5泊 = 2500円

合計 約15000円程度 【緊急宿泊用に別途2万円程度準備】

各種連絡先

- ・ 上市警察署 室堂警備派出所 076-465-5778
- ・ 長野県警山岳情報 026-235-3611
- ・ 新穂高登山指導センター 0578-89-3610
- ・ 五色ヶ原山荘&ヒュッテ 090-2128-1857
- ・ スゴ乗越小屋 山小屋案内所 076-482-1917 080-1951-3030
- ・ 薬師岳山荘 090-8263-2523
- ・ 太郎平小屋 太郎平小屋直通電話 080-1951-3030(21:00まで)
- ・ 薬師沢小屋 076-482-1917 080-1951-3030
- ・ 雲ノ平山荘 090-4672-8108
- ・ 三俣山荘 090-4672-8108
- ・ 双六小屋事務所 0577-34-6268

緊急連絡先

京都産業大学学生部 075-705-1432

顧問 横山茂樹

在京連絡人 内藤友人

各自データ

氏名	生年月日	血液型	携帯番号	実家住所	実家電話番号
藤田琢也					
笠井高人					
鈴木健悟					
山本修平					
羽根優介					
杉原浩太					
橋崎裕幸					
川原将司					

感想

・鈴木健悟(4回生)

夏山合宿に参加するのは2年の時以来で、それもアクシデントで引き返したため、私にとっては実質初めての長期縦走の登山となりました。また、高校のときからこれまで山に登ってきたとはいえ、今回までは3泊4日が最長であり、6泊7日という日程に対して、かなり不安を抱いていました。

当日は雷雨の中、見慣れた室堂バスターミナルまで電車とバスとケーブルカーを乗り継ぎ、そこで荷物を計測すると26kg。出発前に団装の水を廃棄したのでだいたい24kgぐらいいだと思いますが、20kgを超えるのは初めてでした。

午前10時頃、雨の中、レインウェアを装備して出発。一ノ越に向かいましたが、天候は一向に回復する様子がなく、一ノ越山荘につくも、雷鳥沢までの撤退を決定。雨の中、悪路をひたすら雷鳥沢キャンプ場に向かいました。この時、私は先頭を努めさせて頂きましたが、コースタイムを過ぎても目的地が現れず、途中で雪解け水の川に道を阻まれ、焦っていた記憶があります。それでもなんとか雷鳥沢に到着し、天候も徐々に回復し、おいしい夕飯を頂いて床につきました。

2日目は最初が急な登りで、浄土山まで登ったらあとは縦走。自分は浄土山の登りでバテました。それでもまだ2日目で体力も精神力も残っており、アップダウンを繰り返す縦走路を必死に他のメンバーについていき、五色が原キャンプ場につくことが出来ました。7日間で一番記憶が残っていない日。

キャンプ場でのお昼ごはんであるパスタがとてもおいしかったことを覚えています。

3日目。2日目よりも激しいアップダウンに、ついに体が耐えられずに体調不良を引き起こしてしまいました。登っては降りて、を3回くらい繰り返したあとにテント場に到着。着いたとたんバタンキュー。昼飯に持ってきたフランスパンにつけるピザソースはあまりおいしくありませんでした。とにかく苦しかった記憶が...

4日目。今回の合宿のハイライトである薬師岳の登頂の日。前日のようなアップダウンはなく、薬師岳まで登ったらキャンプ場までそのまま降りるだけなので気分的にもラクで、みんなも元気でした。間山で御来光を迎えましたが、非常に綺麗でした。そして2回くらい、ニセ北薬師岳ピークに騙され、北薬師岳にたどり着き、薬師岳に着くことができました。天気も非常に良く、気持ちのいい頂上でした。下りでは部員の1名が体調不良を引き起こしてしまいましたが、なんとかキャンプ場に着きました。笠井氏の高級蜂蜜を使ったホットケーキは逸品。

5 日目。薬師沢までかなりの高度を下り、そこからの急登がある日。笠井、杉原の両氏と橋崎君の 3 名は薬師沢から高天原温泉に入るために別行動をとり、我々 5 名は秘境、雲ノ平に向かいました。急登は確かにきつかったですが、自分には上りきってからキャンプ場までの方がこたえました。キャンプ場ではハエの大群が猛威を奮っており、夜は隣の大学生パーティに睡眠を邪魔されるという妨害工作もありました。

6 日目。またしても一気に下り、再び登らなくてはならない日。三俣山荘までは元気でしたが、三俣蓮華岳登頂時に体力がピークを迎えたのか、動かなくなりました。三俣蓮華岳の景色は槍ヶ岳も近くに見え、きれいでしたが、双六岳に向かうときにとうとう皆について行くことができなくなってしまいました。なんとか 20 分遅れぐらいで頂上にて合流できたものの、あと 1 日登りがあったら…。双六のキャンプ場で、着いた直後に雷雨に見舞われましたが、ギリギリでテントをたてることができ、間に合いました。高天原からの別働隊は直撃を食らったようです。

7 日目。最終日。下るだけ。ここから先は高校の時にも同じルートを下っていたので多少気分がラクでした。それよりも帰りのバスの予約がとれずに電車になってしまった方がつらかったです。それから帰ってから 2 日後に、ザックの底から腐った人参を見つけ出したときは絶望的になりました。

最後に、今回は藤田プロデュースの登山でしたが、後日自分が北海道の責任者をするにあたり、1 週間の計画を立て、人を連れて行くことがどんなに大変なのか、身をもって知らされました。特に今回にあたっては、皆の士気を左右しかねない食料計画について、あれだけの高いレベルのものを考え出すのは（私はいつも簡素なメニューで済ましてしまうことが多いので…）非常に大変だったと思います。本当にありがとうございました。また、体力はもとより、精神面、特にストレス耐性を、もっと鍛えなくてはならないと思いました。体力は経験でカバーできても、精神力を切らしてしまったらおしまいです。

卒業後は今のみんなと登山にいけるかどうかは分かりませんが、できるものならば、また、このメンバーでも登山をしたいです。

・川原将司(2 回生)

今回、初めての北アルプス登山、並びに長期間の縦走登山の参加となった。初めての長期登山とあって、装備面等で不安はあったものの、無事合宿を終えることができた。入山日に高山病になるということにはなかったが、天候が悪く、早速停滞するという事態に、

先行きを案じることになった。

二日目は、自分がパーティーの先頭に立つ隊列をとった。

ペース保持に戸惑い、焦りも相まって、早足になりがちではあったが、屈強な先輩たちは苦も無く着いてこられていた。また、今回の合宿で初めて、雪渓を横断することになったのだが、やはり、軽アイゼンでも良いので携帯しておいたほうが良かったのでは、と、後々になって考える始末である。

体力面での心配は、もちろんあったのだが、北アルプスの雄大な自然に感動し、それに伴い会話も弾み、楽しい縦走だったと言える。当初、懸念されていた登山靴の、爪先部分がきついという問題も、インソールを代える、靴紐を前だけ緩める、と言った対処を採ることで、足先を痛めることも無く全工程を踏破することができた。

下山し、新穂高登山口の登山者用温泉で1週間ぶりの入浴をしたのだが、1週間分の汗と垢を流すことで、何とも言えない心地よい気分で登山を締めくくることができた。

山中では、見るものも感じるものも、街では得ることができないものばかりであったので、この経験を、部活動にも、普段の生活でも活かしていけるようにしたい。

・笠井高人(4回生)

学生生活最後の夏山である。また6泊という過去に体験したことのない長丁場ということで、今回は気合を十二分に入れて望んだ登山合宿であった。

装備もしっかりと揃え、団装の食料を持ち、ザックの重さは30kgを超えてしまった...

初日は前日のオープンキャンパスの疲れ、夜行バスによる睡眠不足の身体を30kgのザックが蝕んでいった。天候が優れない為に歩行時間が短くてすんだことは幸いであった。もし予定通りであれば、初日で全精力を使い果たしていたに違いないと確信する。

2日目、3日目はアドレナリン全快であったので余り覚えていない為に割愛する。ただキャンプ場で某高校のワンダーフォーゲル部員が今年の阪神タイガースの強さを後輩に熱弁していたことは如実に記憶している。優勝確実と豪語していたが・・・

・フェニックス。

4日目以降は縦走できたので夏山らしくなってきた。やはりメインザックで縦走することはいささか辛いけれども、やめられない何かがある。特に薬師岳素晴らしかった。ドリルを持ったおっさんのいる山として末永く我が脳裏に焼きつくことであろう。

また今回の合宿の魅力として温泉が挙げられる。温泉フリークの私としては 3 回も入れて幸せであった。特に高天原温泉はこれまた生涯忘れられないものとなった。湯の質もさることながら、最寄りバス停より徒歩 2 日というアクセスが魅力的である。まさに秘湯中の秘湯であった。

上述のように最後として締めくくるに相応しい夏山合宿であった。もしもう一度同じコースを行けるチャンスがあれば、「行きたいようで行きたくない」というのが本音である。

・杉原浩太(4 回生)

この合宿は私の探検部人生における集大成といえる。

ひとりの探検部員が 4 年の間にめぐり合えるかどうかの超ハードな合宿。これが計画され、遂行されただけでも素晴らしいことだそう。さらに達成しちゃうなんて・・・。

入部当初の私はここまでの合宿に挑戦できるなんて思いもしなかった。当時はキャンプの知識ゼロ、アウトドア？なんだ？ 登山？知らん？ ____こんな状態。

この部活、そんな自分であっても文句なしで入部でき、そしてここまで私を成長させてくれた。いやぁー、素晴らしいねえ。私がここまで来られたのは、その良き風土のおかげである。これからも探検部は、私のような素人を受け入れてくれる部であってほしい。

そんなことを考えさせられた合宿であった。

と、なんとか かんとか。この合宿で少し世界観が変わりました。

・山本修平(4 回生)

例年通り（もう決まり文句のようやけど笑）体力不足を痛感しました。特に今年は初日雨に降られたため、その日は精神的に大変参っていて場の雰囲気重いものにしてしまうなど、みんなに迷惑をかけたと思います。

この時に思い出したものが強い肉体には強い精神がやどるという言葉。まさにその通りで、私は日々の体力錬成を怠ってきたことを強く反省しました。次いで調理を一部の人に任せっきりだったことも改善しなくてはと反省しています。

また既述の体力不足は私以外にも散見されたと思っているのですが、それらの者たちは（勿論私も込みで）他を思いやる配慮や精神的な余裕を欠いていて、そのために今合宿は小さなイザコザが多かったと感じました。これについて私自身も反省しています。

このように今回の合宿、自他ともに反省点の非常に多いものだったと感じますが、それで

いて楽しかったと思えたのは、とても形容できないほどの素晴らしい景色や苦しい山行だったからこそその達成感の大きさなどがあったからだと思います。良かったです♪

CLの藤センやみんな、本当にお疲れ様でした()♪

・橋崎裕幸(3回生)

今回ほど大変な山行は初めてであり、非常にストイックな一週間を過ごすことができました。荷物の量もこれまでの反省もあり削りましたが、それでも食料を詰めると30kg前後となりました。幸い、優先して消費してもらえたこともあり、早々に3~4kg軽くはなりましたが、それでも一週間メインを背負っての縦走はきついものでした。

三日目辺りからは他のメンバーとの地力の差が出始めたのか、疲れてくると頭痛が止まなくなりました。山を楽しむ秘訣は『余裕』だと思うので、メンバーに迷惑をかけないためにも、今後も体力の錬成に努めたいです。

そして、今回何よりも嬉しかったのは、高天ヶ原の温泉に浸かれたことです。

日本の最奥地の温泉を訪ねられたのは、北アルプスの素晴らしい景色、メンバーと過ごした時間と共に一生の思い出です。

三俣蓮華から双六小屋まで、カミナリに追われながら走り抜けたのも良い思い出です。

人間命が関わってくると疲れも吹っ飛ばすことを、身を以て知りました。

メインを背負って走る元気が何処にあったのか、今でも謎です。

カミナリ怖い。凄く怖い。

本当に容易な合宿ではありませんでしたが、フラフラになりながらも、怪我なく全行程を歩ききれたことは自分の中で大きな自信となりました。

これ以降も、もっともっと山に慣れて、山を知り、さらに山を楽しめる人間になりたいです。

・羽根優介(4回生)

夏の活動第一弾として、8月初頭に計8日間に及ぶ登山行を決行した。

3日、京都から富山まで18切符を利用して行く。ホントはバスで行くはずが、自分たちのミスで予約を取れなかったため、取れなかった数人で本隊に先行しての富山入り。

最後、と思い、美味しいものを食べ、飲み会までしてしまった。

4日の朝、ホテルを出発し、本隊と合流。

その後鉄道、ケーブルカー、バスを乗り継いで立山は室堂に到着。本当は180度のパノラマが見えるはずが、雨のせいで何も見えず、何とか登山を開始するも途中でCLが危険と判断し、室堂よりも高度が低い雷鳥沢キャンプ場へ。

温泉に入り、天候回復によって目の前に現れた景色を眺めてから就寝。

5日、2時半に起床し、日の出前に出発。

本来なら前日に行くはずの行程が、さらに距離と高度差を追加して始まる。龍王岳経由で五色ヶ原へ。崖を登り、雪渓を越え、頂上に着いたと思ったらまた下り、また登り、を繰り返す、やっとのことでキャンプ場へ。立山カルデラは雄大であったし、立山剣岳方面の眺めは絶景だった。

6日、前日と同じく夜中に起き、日の出前に出発。この日は、薬師岳手前のスゴ乗越キャンプ場へ。出発時から、次の日に登る薬師岳、そして目的地であるキャンプ場が見えていた。照りつける太陽の中、斜面の風が吹かない側を歩き、木は生い茂って歩くのを邪魔した。しかも、ロープを使わないといけない場所や、崖につけたような狭い道。さらに、一つの山登りを繰り返すかのような高低差。

精神的にも体力的にも磨り減ったので、山小屋ジュースを購入。

7日は薬師峠までの薬師岳縦走。早朝から急坂を一時間。ただ、これのお陰で日が出るまでにかかなりの高度を稼ぐことができ、ご来光をいいポジションで拝むことができた。

北薬師岳と薬師岳の間は崖に挟まれた岩場のため、精神的に磨り減ったが、薬師岳山頂からの景色は素晴らしかった。劔岳から槍ヶ岳まで、北アルプスの名峰が同時に拝めた。

精神的にも体力的にも、この日を境にどんどん楽になっていった。

8日、秘境・高天原温泉にゆくメンバーと別れて雲ノ平へ。沢沿いを進み、薬師沢小屋にてチームを割り、我々はそのまま目の前の台地を登る。コースタイム3時間、森林の中の崖に近い坂を上った。

ここで先頭を任される。無我夢中で登ったところ、コースタイム-1時間で崖を上りきり、雲ノ平に到着。皆でジュースを乾杯した。それ程しんどかった。

夕方、CLと写真を撮りに散歩。

9日は、本行程最後の山、双六岳まで。黒部源流で水を飲んだが、これは美味しかった。

三侯蓮華岳(岐阜・富山・長野三県に跨る)の頂上は絶景だった。双六岳にたどり着き、そこからキャンプ場まで下り。設営した途端、激しい雨と雷。前日分かれた連中は運悪く雷雲の中を縦走してくることに。

10日、最後の登りと地上までのくだりの行程。

朝日を背負った槍ヶ岳は素晴らしかった。

途中、鏡平小屋で名物のカキ氷を食べ、結構なスピードで下山。わさび平小屋では、冷えたリンゴとラムネがあったので、無我夢中で食べて飲んだ。新穂高で温泉に入り、コーラとソフトクリーム。そして、バスで向かった高山でもラーメンを食べた。

以上が、全工程である。

やりきってみると、もの凄く自信がついた。

荷物 27キロ、地図上の距離 40km、総高低差を数える気にもなれない程のアップダウン。

事前に少し走っていたとはいえ、よくこれだけの合宿についていけたものだと思う。

文字や写真じゃ伝わらない雄大な景色、水や食事の美味しさ、花の色合い、

見入ってしまうような夕日、飛び交う蠅。ひたすら一緒に歩き続けた仲間。

これらは、多分一生の思い出となるであろう。

・藤田琢也(4回生)

この合宿は昨年の単独縦走終了後、

次に行きたいと考えていたコースを実現したものでした。

おそらく、多くの参加者にとって今まで体験したことのない長期合宿であり、出発前からさまざまな困難が予想されました。毎日の長時間歩行、早寝早起、重い荷物 etc...

そうした中で、日々感じるものがそれぞれあったかと思います。自分の場合は昨年の例があるため充実した毎日を過ごしていましたが、いつもとは違った状況に戸惑う人もいたようです。

でも、きっと自分だけの何か？を見つけられたと思います。

そして全員が最後まで歩き通せたこと。

それが何よりの収穫だと思います。

お疲れさまでした。

またどこかの山で会いましょう...